

特定非営利活動法人
和歌山 e かんぱにい



ニュースレター VOL. 3

(2012. 6)

—contents—

1. 和歌山 e かんぱにい活動報告
2. “りいぶる” 2011 事業報告
3. eか・んコラム
『知っ得！なっ得！ジェンダー用語』
『eかんぱにい おすすめ♡ブック♡』
4. 編集後記

和歌山 e かんぱにい活動報告

2011 年度の e かんぱにいの主な活動を紹介します。

- 和歌山 e かんぱにい 2 周年記念講演会（赤い羽根共同募金助成事業）
“おひとりさま”を愉しむために
～自分らしいおひとりさまの老後～

開催日：5 月 14 日（土）

場 所：和歌山商工会議所（和歌山市西汀丁 36）

講 師：上野 千鶴子さん

NPO 法人 WAN（ウィメンズアクションネットワーク）理事長
東京大学名誉教授

女性学、ジェンダー研究の第一人者である、
社会学者の上野千鶴子さんを迎えて「おひとり
さま」を愉しむ極意や、老後の生き方について
考える講座を開催しました。



当日は、248 名の参加者があり、社会的に関
心の高さがうかがえました。講師からは、単身世帯の増える超高齢化社会のなかで、
いかに自分らしい老後を愉しむか、多くのヒントや気づきをもらえた講座でした。



- 東日本大震災、紀伊半島台風 12 号水害支援ボランティア

3 月 11 日の東日本大震災被災地支援のため、メンバー 3 名が岩
手県でのボランティアに参加しました。また、9 月の台風 12 号に
よる紀南地域の水害による被災のため、メンバー 5 名が本宮町・新
宮市・那智勝浦町への復興ボランティアに参加しました。

2011 年は、各地で多くの災害に見舞われた年でした。底知れぬ絶望のなか、
希望の灯をもって立ち上がる人々に敬意を表わさずにはいられません。また、女
性たちの声が集まり、復旧・復興に向けた様々な活動も始まっています。今回も
災害時に男女共同参画の視点が欠かせないことは教訓として残りました。その声
は、防災のなかにもっと活かしていきたいものです。

2011年度“りいぶる”事業報告

— “りいぶる” 石の上にも3年? —



実現可能なのか半信半疑だった、民間の手による“りいぶる”の運営。予想とは違ったかたちになったが、男女共同参画活動仲間が“りいぶる”に常駐し関わることになって早3年目に入った。今にして思えば、随分気の長い話だったが、実現しての2年間はあっという間に過ぎた。

昨年度は、事業内容も異なり講座数が減った代わり?に印刷物が多く、産みの苦しみはあったものの楽しく作業が進んだ。年3回発行のセンターニュースの企画・編集、デートDV防止啓発冊子作成、書評誌の編集・作成などで、どれも企画課と何度も協議を重ね、熱いメッセージを込めて丁寧に作りこんだ、珠玉の作品だ。相談事業も2年目とあって充実、スーパーバイズも新たな観点からの指導が得られ、相談員一人ひとりのエンパワメントにつながった。男性相談も、広報活動の成果が徐々に現れたのか、毎回一定数の予約が入るようになり、県内初の男性相談が定着してきたのは嬉しい。また、昨年度は図書貸出や交流スペースの利用拡充にも力を注ぎ、掲示や各種週間等に因んだ事業も展開した。お陰様で利用者は前年度比約40%増となり、“りいぶる”に少しにぎわいを取り戻すことができた。そして、企画課との連携が非常にスムーズで、広報活動から当日の運営まで、いい協働ができた。

3年目の今年は、常勤5人と所帯は随分スリムになったが、今までにも増して丁寧に来館者一人ひとりと向き合い、一つひとつの講座に取組んでいきたい。そして、“りいぶる”を老若男女が気軽に過ごせる“サードプレイス”として定着させ、一日も早い男女共同参画社会の実現をめざしたい。「石の上にも3年」。eかんぱにいいにもスタッフにとってもこの3年間は、きっと大きな宝物になるはず。今年も応援、よろしく願いいたします。(小原)

和歌山市男女共生推進センター自主企画講座 2月5日（日）開催！

恋愛×結婚論

「私らしい“恋愛と結婚”を見つけてみませんか」

講師：伊田 広行さん（立命館大学・神戸大学非常勤講師）



「自分らしい」をキーワードに、自分にとっての恋愛や結婚観を考える講座を開催しました。参加者は男性4名を含む23名で、20代から60代と幅広い年代の方が参加され、皆さん活発に交流されました。

講師は、一般的に愛とは相互所有・独占することであり、結婚は相手を独占することを合法化し、社会的に承認される行為だと思われる。そのため、相手の主体性、自由や成長を奪い、DV（デートDV）につながる危険性があると解説されました。また、最近の非婚・未婚化の問題には異性の交際相手がない未婚者の増加や、非正規職員が男性にも増加したことによる結婚資金不足などが背景にあると紹介。親の半数以上が未婚である北欧などと比べると、日本では「子どもができれば結婚すべき」という考えが強く、DVがあっても結婚して別れられないケースも多いと話されました。

後半は、自分の恋愛観・結婚観を考えるワークを行いました。好きになるときにどんな所を重視するのか、どんな恋愛観を持っているのか、なぜ結婚するのかを見つめ直し、グループで共有しました。講師からは、シングルでもカップルでも、まず自尊心を持ってどう生きるか、ということが大切だというメッセージをいただきました。

アンケートでは「みんなの意見を聞くことで新たな気づきがあった」「自分の考えや何に価値をおくのか整理ができ、とても良かった」との感想が寄せられ、じっくりと語り合い気づきを得られた講座でした。

（井上）



知っ得！なっ得！ジェンダー用語

毎日を自分らしく生きていくために、これを知っておくと損はないよ～！という用語を紹介するコーナーです。



ーロールモデルー

内閣府によると、「将来像を描いたり、自分のキャリア形成を考える際に参考にする役割モデル」と解説しています。要するに、「あんなりたい」と憧れる人のことですよ。誰しものが何人かのロールモデルから影響を受けているはず。自分がどんな働き方、生き方をするかを考えると、身近なロールモデルの存在は大きな意味をもちます。そして男女共同参画社会の実現のためには、もっと身近にロールモデルが増えることが必要です。

大昔、私（井上）のロールモデルは「山口百恵」でした。若い時に活躍、結婚とともに家庭に入り、いつも優しい夫と子どもがいて…。どっぷりジェンダーが刷り込まれていました(+o+)。みなさんの身近にロールモデルはいらっしゃいますか？

言葉はよく知られているので
今回は豆知識風に。

ーセクシュアル・ハラスメントー

「職場や学校などで、相手の意思に反して不快や不安な状態に追いこむ性的なことばや行為」のこと。1970年代のアメリカで造られた言葉とされています。日本では、1989年に出版社勤務をしていた晴野まゆみが、上司を相手取り日本初の「福岡セクシュアル・ハラスメント裁判」※を起こし、世に知られるきっかけとなりました。その裁判は、1992年に全面勝訴しています。

ポイントは、「される方が不快に感じた」時点でセクハラだということ。加害者が自分の行為をセクハラだと意識していないことも多々あり、「認識の違い」や「個人の主観の問題」などと言い逃れするケースもあるようですが、根本的に「人が嫌がるようなことはするな」、ですね。

※晴野は、1988年解雇されフリーライターとして独立。2001年裁判手記を出版。

eか・ん コラム

eかんばんにい おすすめ♡ブック♡

今回は、テイストの違う3冊をご紹介します。

まずは、eかんばんにい2周年記念事業で講師に招いた、上野千鶴子さんの著書。そして、心がほんわかする中山千夏さんの絵本と、国会議員である野田聖子さんの著書です。

上野さんの本は、eかんばんにい会員の方に貸出しておりますので、ご連絡ください。中山さんと野田さんの本は、りいぶるの図書コーナーにありますので、お立ち寄りください。



著者 上野千鶴子
信田さよ子
出版社 河出文庫

社会学者でジェンダー研究の第一人者の上野氏と、臨床心理士で日々女性の問題に関わるカウンセラーの信田氏の対談集。信田氏いわく、「結婚についての最良の指南書」。

非婚化に親の介護、男の支配欲望、虐待・暴力から逃げない妻たち…。

この二人でなければここまで切り込んで語らないだろう。良きにつけ悪きにつけ、女性の人生を左右する「結婚」。結婚の現実とこれからを考えるうえでぜひ読んでほしい。

どんなかんじかなあ



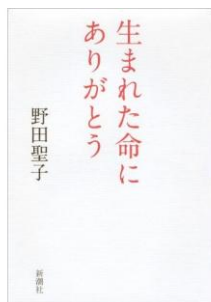
著 者 中山千夏
絵 和田誠
出版社 自由国民社

目が見えない友だちのまりちゃん、
ぼくは目を閉じて感じてみる。耳が聞
こえない友だちのさのくん、ぼくは耳
栓をして感じてみる…。

障がいを持つこと、障がいについて
優しく語りかけるこの絵本は、心をほ
んわか温かくしてくれる。子どもにも
大人にも読んでもらいたい一冊だ。

相手の立場に立って考える、感じて
みる。私たちが生きていくなかで、本
当に大切なこと。これは男女共同参画
を理解するうえでも同じだなあと実
感した。第11回日本絵本大賞受賞。

生まれた命に ありがとう



著 者 野田聖子
出版社 新潮社

卵子提供を選択し50歳で出産し、
話題となった国会議員、野田聖子の出
産までの記録。

著者の選択に賛否両論はあるが、女
性議員であったがため、産むべき時に
産めない時代があったことなど、辛か
ったことを吐露する。

著者は「できるだけ若い時に子ども
を産めるよう、もし叶わない場合は人
為的な道も用意されている、そんな妊
娠、出産の多様性のある日本に」と、
訴えている。

編集後記



毎度毎度、言い訳になりますが、諸事情によりVOL.3の発行が遅れたことをお詫びいたします。出版社だったら、左遷でしょうか…。

でも、伝えたいことはたくさんあるのです。次号のネタなどもお待ちしております。和歌山のまちで、一緒に男女共同参画を盛り上げる仲間も、エブリデイ募集中です。エブリデイ男女共同○▲□(*^_^*) (井上)

あなたも会員になりませんか？

和歌山eかんぱにい、平成21年5月に認証された特定非営利活動法人です。一人ひとりが持てる力を十分発揮できる男女共同参画社会の実現をめざしてさまざまな活動を展開し、ふるさと和歌山を元気にすることを目的としています。

お問合せ・お申込みは下記まで

—あなたらしく生きる、キーワードは3つのe—

特定非営利活動法人 **和歌山eかんぱにい**

〒640-8323

和歌山市太田 2-4-24

TEL/FAX:073-488-7870

E-MAIL : ecompany821@gmail.com

